

様式1（専門職によるアドバイス支援事業 依頼書）

平成29年 6月30日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

（依頼者）

〒222-0001

住所：神奈川県横浜市港北区樽町4-8-24

事業者名：日圧総業株式会社

担当者所属：BU28

担当者名：森 厚弘

電話番号：045-543-1279

電子メールアドレス：amori@jst-mfg.com

専門職によるアドバイス支援事業 依頼書

貴法人が福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の一環として行う、介護ロボット等の「専門職によるアドバイス支援事業」について、下記の書類を提出して依頼します。

記

1. 専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書（別紙）
2. 会社概要（任意様式）
3. これまでの福祉用具・介護ロボットの開発実績がわかる書類（任意様式）
※実績がない場合は、提出不要

（書類の取り扱い等について）

- ご提出いただく「専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングのために公開いたします。公開可能な範囲において、できる限り記載してください。
- 「専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書（別紙）」は、介護施設等とのマッチングに際して、インターネット等を通じて登録協力施設等へ情報提供します。
- 依頼する案件について、適切なアドバイスが行える介護施設又は団体等が現れない場合には、実施できない場合もあることを予めご承知ください。

専門職によるアドバイス支援事業 依頼概要書

1. 事業の種類 (いずれか希望する方に○印を付けるか、事務局までご相談ください。)

1. 介護職員等との意見交換	
2. 専門職によるアドバイス支援	○

2. 依頼者の概要

企業名	日圧総業株式会社		
担当者名	BU28 森 厚弘		
担当者連絡先	住所	〒222-0001 神奈川県横浜市港北区樽町4-8-24	
	電話	045-543-1279	
	電子メールアドレス	amori@jst-mfg.com	
主たる業務	電子部品製造販売		
主要な製品	電子機器向接続用部品全般		
希望する施設等の種類・職種等	地域内の独居高齢者（自立生活が出来ている高齢者）への見守り支援やサポート等を行っている地方自治体担当部門や施設、同様のサービス提供を行っている事業体や地域ケアセンター、ボランティア団体等		
その他	一般的な使用のひとつとして遠隔地に独居高齢親族を持つ家族等も主たる対象としている。		

3. 機器開発コンセプトあるいは試作機の概要 (可能な範囲でご記入ください)

機器の名称 (仮称)	簡易見守り機能付コミュニケーションアシストロボット機器		
試作機の有無及び機器のコンセプト (試作機あれば写真を添付)	試作機の有無	①. 有り ・ 2. 無し	
	機器の目的及び特徴 内蔵されているスマートフォンの専用アプリと本機ボタン操作連動によりメール機能の簡易使用を可能とし、内蔵センサーにより遠隔簡易見守り機能も有する。		
想定する使用者及び使用方法、使用環境	使用者、使用方法、使用環境 一般的な自立生活を送れている独居高齢者や視覚障害者等を使用対象とし、スマホ使用によりWifi等通信環境に左右されずに家内の任意な場所に設置が可能。		
現在の開発状況と課題	機器本体のデザインや基本機能動作の確認検証はほぼ終了しているが、イレギュラーな状況での不具合発生確認や動作復帰等の実証を試作機において随時実施しており、実使用においての使い易さをどこまで高められるかが今後の課題と考える。		
特にアドバイス (意見交換) を希望している事項	基本機能であるメール受信音声読上げ、音声送信に加え外出モードや遠隔センサーチェックによる見守り等様々なオプション機能を備えているが、それら機能の実使用における有益性の有無について専門的な意見を頂きたい。		
その他	将来的な販売時においてどのような取組みが必要なのかのアドバイスも出来れば希望致します。		

(注) 必要に応じて記載欄を増やしてください。

見守り機能付コミュニケーションアシストツール [Communication Matchmaker : コマチ]

製品紹介



2016/11/22

日圧総業株式会社

開発コンセプト

福祉機器と家電製品との融合：福祉家電

高機能化しているスマートフォンを独居高齢者や障害者とのコミュニケーション及び見守り機器として双方向にて活用することを目的とし、機器の簡素化による操作性を最優先したデジタルアシスト機器として開発。

既に市場に溢れている高機能型見守りシステムとは異なり、スマートフォンの持つ通信機器としての利便性と手軽さを活用し、簡易コミュニケーション機能と人感センサーによる日常/非日常の確認だけに機能を特化し高齢者・障害者にも扱い易い操作性を実現する。
更に維持経費も通信費用のみと経済的負担の少ない見守り生活支援機器として一般普及を目指す。



ターゲット市場

- ・ 独居高齢者/視覚障害者
⇒ 一般生活において自立生活可能な独居高齢者・障害者が主対象
- ・ 遠隔地にいる家族、親族
- ・ 地域社会（自治体、医療機関、介護施設及び関連企業等）
⇒ 地域内独居老人の生活支援や定期的見守り巡回を行っている自治体並びに施設、関連企業

世帯構造推移(平成26年度厚生労働省調査)

* 高齢者: 65歳以上

	総世帯数	高齢者世帯(構成比)		単独高齢者世帯(構成比)	
平成10年	4,449万	561万	12.6%	272万	48.5%
平成22年	4,863万	1,020万	21.0%	501万	49.2%
平成26年	5,043万	1,221万	24.2%	595万	48.8%

開発経緯

設計当初はスマートフォン用充電クレードルタイプとして開発
将来的なスマホ単独使用も考慮



「専門職によるアドバイス支援事業」に応募



専門職アドバイスによりスマートフォンを内蔵化 ⇒ 使用機能を特化
外観的にも日常生活において親しみのあるデザインに一新

初期コンセプト

専門職によるアドバイス支援

案件番号 27-B11 **コミュニケーション及び簡易見守り機能搭載スマートフォン用多機能充電器への専門的助言**

その他 **スマートフォン用多機能充電器型コミュニケーション補助ツール**

機器事業者：団体

日任総業株式会社

BU28 関東営業所
〒222-0001 横浜市港北区榑町 4-8-24
Tel: (045) 543-1279
HP: <http://www.jst-sogyo.co.jp>

アドバイス支援実施施設

■かわさきJプロジェクト+

アドバイス支援のねらい

経済的、精神的、労力面での見守り側の負担軽減効果も確認

本来スマートフォンの周辺機器製品の位置付けである充電器に、コミュニケーション用アナログボタンと、人感センサーによる簡易見守り機能を備えた本機は、独居老人の孤立化を防ぎ、遠く離れた家族や地域間とのコミュニケーション補助ツールとして開発を行った製品である。

基本性能に関しては、製品コンセプトとして、高齢者の操作し易さを最優先とする絞り込みはできているものの、それ以上に見守り側の経済的負担（維持費は通信費のみ）、労力軽減、精神的安寧等に最大限の配慮を行うことに大きな効果を期待しており、実用においてそれら効用の確認と、改善アドバイスを求めることを希望した。

また、将来的に使用者層を独居老人に限らず、視覚障害者なども対象とした一般的な福祉向機器製品としての展開の可能性についても意見を求める。



機器イメージ

スマートフォンを充電する場合

アドバイス支援の成果

高齢者の操作性を重視。具体的用途と使用者層の絞り込みを明確に

多機能簡易見守りスマートフォン用充電器が従来の見守りシステムと大きく異なる点は、詳細な状況見守りではなく、日常生活と非日常的なアクシデントの発生感知を目的とした簡易見守り機能に特化した仕様にある。従って機能面においては極力簡素化を図り、シンプルな操作性を重視しているため、それら絞り込まれた仕様の実用における下記問題点について検証いただいた。

- ① 外観（形状／重量、デザイン）
- ② 設定（アプリ環境設定、基本仕様、本体との接続、人感センサー設定等）

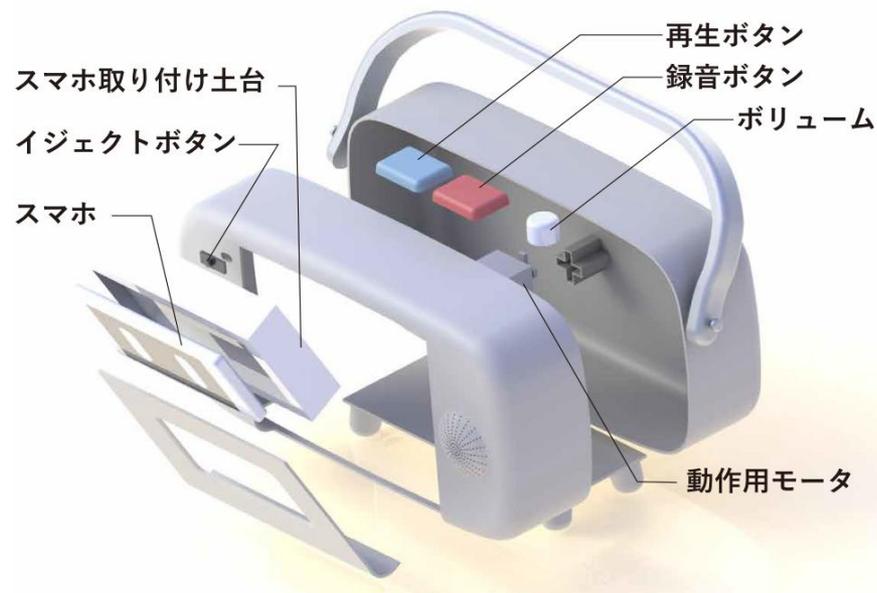
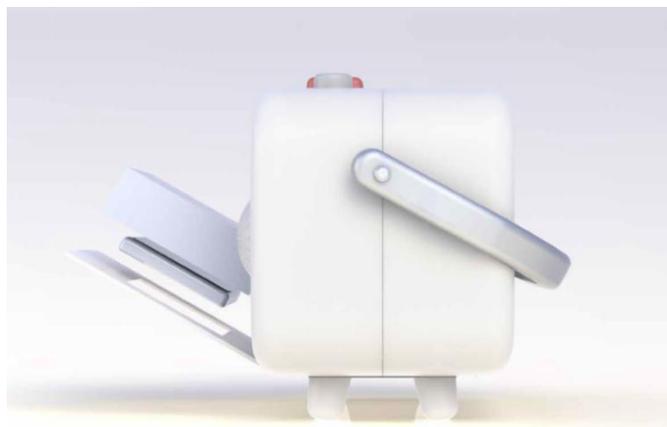
- ③ 基本機能（電源、メッセージ受返信と読み上げ、受信告知等）
- ④ 異常動作対応等

アドバイスにおいては、全体的に機器における実際の高齢者の操作性を重視する内容を指摘いただき、特に具体的な用途と使用者層の絞り込みを明確にすべきとの意見は大変参考となるものあり、機能面における人感センサーの用途、充電機搭載による異常時対策、音声メール読み上げ対応などは、今後の製品化検討において有意義なアドバイスをいただくことができた。

機器構成



TOP



★ 簡易ボタンによるワンプッシュ操作の実現

- 受信用ボタン：受信メールの自動音声読上げ
- 返信用ボタン：音声録音後登録先アドレスに自動送信

★ 人感センサーの活用

- 感知範囲内を通過時に未読メールを自動告知
- センサー感知最新時刻をメール送信により任意に確認

★ 赤外線リモコン機能搭載による遠隔操作

★ ボリューム機能内蔵による音量調整機能



様々な通知機能

メール受信時における通知機能

- ① 音声による通知
- ② 操作ボタンの点滅による通知



- ③ モーションによる通知



コミュニケーション機能①

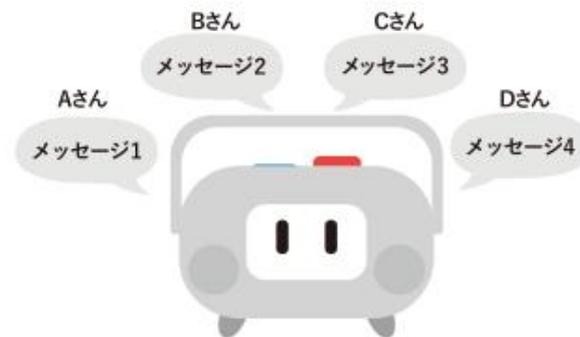
メッセージ受信・再生機能



携帯電話からの音声ファイルの再生、
または、文章メッセージの読み上げ。
再生時は、送信者の名前を一緒に読み上げ。



メール着信時は声と動きで通知。



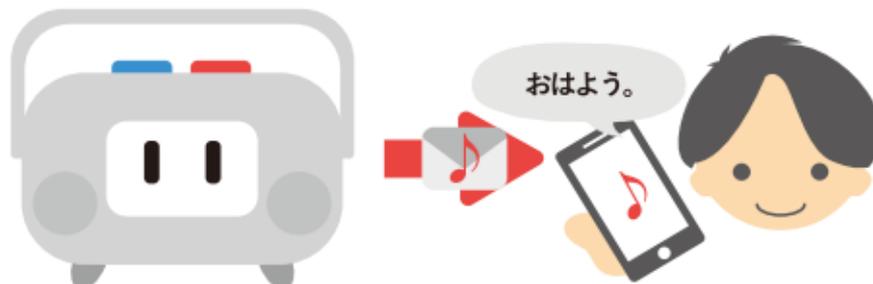
複数、未読のメッセージがある場合は、
全て古い順に再生。
最後に再生したもののみ、返信。

コミュニケーション機能②

メッセージ録音・送信機能



録音スイッチを押している間録音
(最大60秒間)



録音終了3秒後、録音されたメッセージを
音声ファイルとして携帯電話にメール送信

人感センサー機能活用

メール受信通知機能

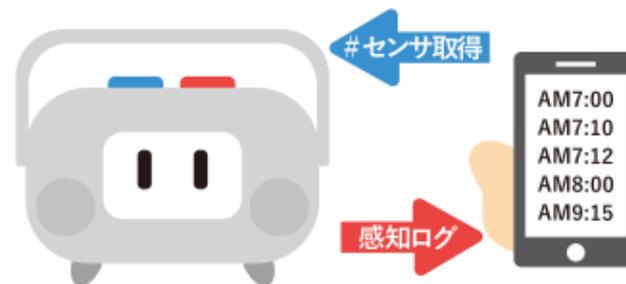
未読メールがある時にセンサー感知範囲内に入ると自動通知



未読メールがある時に、
近くに行くと人感センサに反応し、
メッセージがあることをお知らせ。

見守り通知機能

任意にセンサー感知ログの確認
が可能



スマホユーザが特定キーワードを
ロボットに送信すると、
センサーの感知ログを返信

簡易メッセージ機能



おはよう!



いってらっしゃい!

外出メール

外出しました



おかえりなさい!

帰宅メール

帰宅しました

人が近づくと、簡易メッセージの再生。
時間に合わせて内容が変化。
ex.6:00~9:00の間は「おはよう!」
その日の最初のメッセージ再生の際には、
指定の連絡先にメールを送信。

外出モードに変更することで、
「いってらっしゃい」とメッセージを再生。
同時に見守り先に外出を
知らせるメールを送信。

外出モード中に人感センサの反応により、
「おかえりなさい」のメッセージを再生。
同時に見守り先に帰宅を
知らせるメールを送信。

その他機能

待機時



端末の寿命保証のため、
待機時は画面表示をオフ。
画面タッチで、ホーム画面を表示。

スリープモード

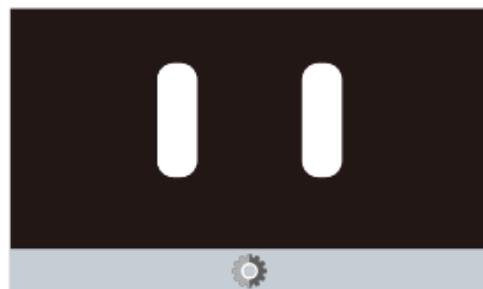


スリープモード時は
着信時は着信動作を行わず、30秒間点灯。
スリープ移行時にセリフをしゃべる。
照度センサと、時間の設定を併用して移行。
画面タッチで、ホーム画面を表示。

画面操作①

登録先設定

宛先指定アイコン



設定画面への遷移



設定
宛先登録・変更
グループ作成
スリープモード設定
着信音設定
アプリケーション終了

設定画面

画面操作②

外出モード設定

外出モード



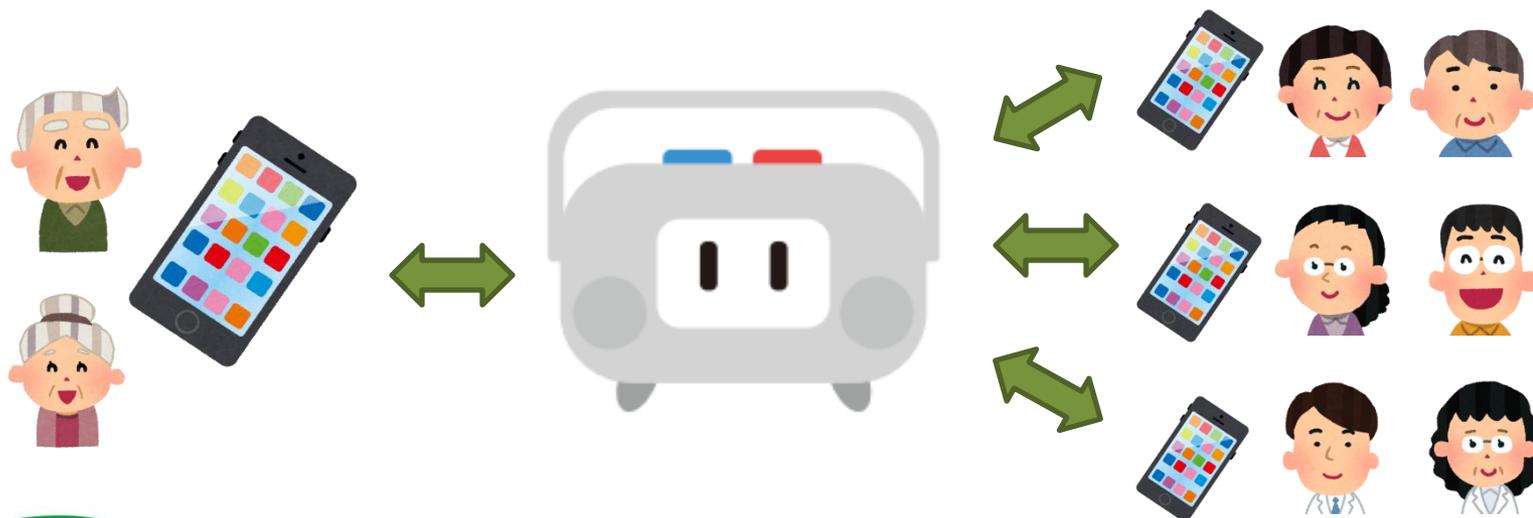
外出モード選択画面の表示方法



本機の利点：スマートフォンの活用

スマホ活用により従来の専用機器を上回る柔軟性を実現

- ★ 双方向においてスマホを使用する事による安価な維持経費使用を実現
- ★ 専用アプリの改良により様々なカスタマイズや機能拡張が可能
- ★ 特殊な通信環境準備は不要 ⇒ 設置場所変更が容易



開発中

見守り機能付コミュニケーションアシストツール

コマチ : Communication Matchmaker

「高齢者とデジタル通信とをつなぐ仲人機器」



ここ数年におけるスマートフォンの多機能化には著しい進化があります。

しかしそのあまりにも早すぎる進化と普及による社会の変革は世代間、地域社会等においてデジタルデバイド：情報格差を生み出し、特に高齢者孤立化の要因のひとつとなっております。

『コマチ』は便利なスマートフォンを高齢者が操作し易い使用環境を提供し、家族・地域等との間を簡易操作で繋ぐことにより、孤独を感じない高齢者の住み良い社会づくりを応援します。

仕様概要 ★ 簡単ボタンによるワンプッシュ操作の実現

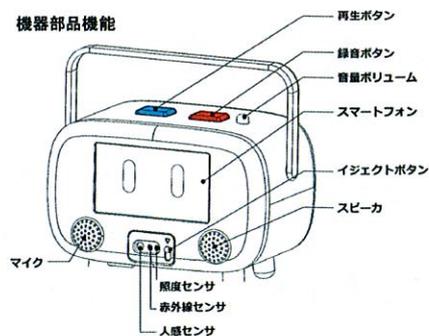
- 受信用ボタン：受信メールの自動音声読上げ
- 返信用ボタン：音声録音後登録宛先アドレスに自動的に送信

★ 人感センサーの活用

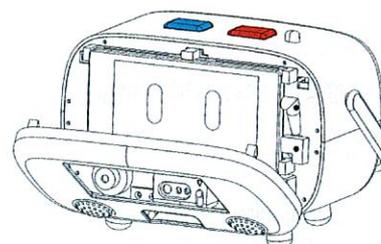
- 感知範囲内を通過時に未読メールを音声とモーションにて自動告知

★ 赤外線リモコン機能搭載による遠隔操作にも対応

★ ボリューム機能内蔵による音量調整機能



スマートフォンを内蔵接続



特許出願中



日圧総業株式会社

<http://www.jst-sogyo.co.jp>

〒541-0045 大阪市中央区道修町三丁目4番7号

TEL : 06-6210-2108

FAX : 06-6210-2138

『現状と問題点』

【デジタルデバインド=情報格差】

デジタル社会を享受出来ない高齢者

高齢者



デジタル社会



【高齢者の孤立化】

高齢化に伴う独居老人の増加とケア問題

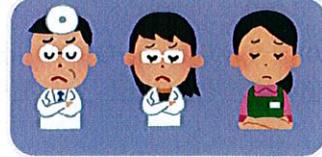
独居老人



遠く離れた家族



地域社会



新たなソリューションの提案

『コマチ』の機能

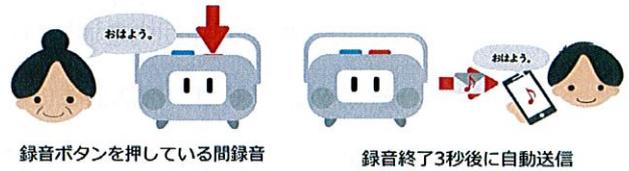
コミュニケーション機能①

メッセージ受信・再生機能



コミュニケーション機能②

メッセージ録音・送信機能



人感センサー機能活用

メール受信通知機能

未読メールがある時にセンサー感知範囲内に入ると自動通知



音と動きで告知

見守り通知機能

任意にセンサー感知ログの確認が可能



特定キーワードを送信

簡易メッセージ機能



様々な通知機能

メール受信時における通知機能

- ① 音声による通知
- ② 操作ボタンの点滅による通知
- +
- ③ モーションによる通知



その他機能

待機時



待機時は画面表示オフ
画面タッチでホーム画面表示

スリープモード



スリープモード時は着信動作休止

The JST logo is displayed in a bold, green, sans-serif font in the top right corner of the dark blue cover page.

The Quality Connection

COMPANY PROFILE

■ トップメッセージ

ごあいさつ

昭和32年、創業以来、弊社が多くの経済的試練に耐え今日の成長を遂げることができたのは、ひとえに、お客様各位のご愛顧の賜物と心から感謝しております。

私共は、JSTグループ各社が製造し販売するものは“すべて、お客様のニーズから始まる”をモットーとし、迅速な製品開発、良品質で安定した製品の製造、工程管理と在庫管理の徹底による即納体制の確立、作業改善と合理化による原価低減に最大の努力を傾注してまいりました。

今後も、私共は社会の進歩と新しい時代の変革に貢献し、より広い国際的視野に立って、電力・電機・電子機器などの、あらゆる接続システムの製品開発に総力をあげ、努力する覚悟でございます。

なにとぞ、一層のご愛顧お引立てを賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長

西本美代子

代表取締役社長

吉村正雄

コーポレートメッセージ

「繋ぐ価値」の創造とともに、世界へそして未来へ

製品仕様に見合った生産設備を保有するには、生産技術力の蓄積と最新のテクノロジーの探究が不可欠です。
これからも、世界初をモットーにもものづくりの最先端に挑戦します。

設備開発力

3つの【チカラ】が繋がり
連動することで生まれる
JSTの圧倒的な優位性！
トップシェアを獲得し続ける
要因がここにあります。

製品開発力

理想の製品をお届けするため、顧客ニーズ・体験から得たノウハウ・最新のテクノロジーを融合した製品設計と多角的な独自のデザインレビュー・性能評価が一体となって新たな価値を創造します。

市場開発力

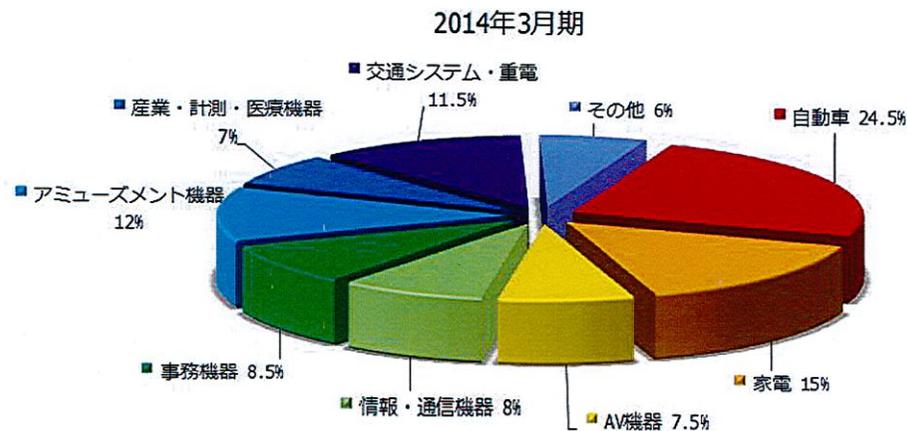
アジア・アメリカ・ヨーロッパ・オセアニアなど世界17カ国28拠点到に営業所を展開。お客様の問題と要望を迅速にキャッチするため、市場別組織と相互連携がシナジー効果を発揮します。



会社概要

- 社名 日本圧着端子製造株式会社
- 英文社名 J. S. T. MFG. Co., LTD.
- 設立 1957年9月9日
- 資本金 6,100万円（国内連結）
- 拠点数 <海外> 40拠点
<国内> 18拠点
- 従業員数 2,100名（2015年3月現在 国内）
- 売上高 856億円（2015年3月期 国内連結）
- 本社所在地 〒541-0045 大阪市中央区道修町三丁目4番7号

売上構成



拠点紹介

未来へ。地球へ。人へ。

新しい夢をつなぐ、JSTグループです。



現在、JSTグループはAsia, Europe, Americas, Oceaniaの各地に生産・販売および開発拠点を設け、世界の主要産業に製品を供給しています。

海外／国内工場

ものづくりのためのもの=生産設備に、こだわり続けること。
常に最良の生産体制を構築すること。
JSTは、生産システムを重視し、
お客様が求める品質をスピーディーにお届けします。

Asia



マレーシア工場 (N-Plant)



マレーシア工場 (I-Plant)



マレーシア工場 (U-Plant)



マレーシア工場 (S-Plant)



上海工場



ジャカルタ工場



韓国工場

Asia (Japan)



宇都宮工場



院庄工場



津山工場



西倉吉工場



倉吉工場



大田工場

Europe



フランス工場

Americas



アメリカ工場

海外／国内技術センター

お客様に最大限の満足をお届けするため、
JSTは、長年にわたるノウハウを活用し最新のテクノロジーを駆使した
高品質でオリジナリティ溢れるコネクタを開発し続けます。

Asia



シンガポール技術センター



ソウル技術センター



ジャルカタ生産技術センター

Asia (Japan)



東京技術センターA



東京技術センターB



名古屋技術センター



大阪技術センター



院庄生産技術センター



倉吉生産技術センター

Europe



ベルギーR&Dセンター



JST GROUP-JRDP S.A.S.U.

Americas



シカゴ技術センター



デトロイト技術センター



ハリスバーグ生産技術センター

海外／国内営業所

JSTは、世界中のお客様が抱える問題や要望に迅速にお応えするため、
世界各地に販売拠点を設け、スピーディーでダイナミックな営業活動を
推進しています。

Asia



J.S.T.COMPONENTS (S)
PTE.LTD.



J.S.T.CONNECTORS
(MALAYSIA) SDN.BHD.



J.S.T.CONNECTORS
(MALAYSIA) SDN.BHD.
-Penang Branch Office



J.S.T.CONNECTORS
(MALAYSIA) SDN.BHD.
-Kuala Lumpur Office



J.S.T.COMPONENTS
(THAILAND) CO.,LTD.



J.S.T. (H.K.) CO.,LTD.



J.S.T.(SHANGHAI) CO.,
LTD. SALES OFFICE



J.S.T.(SHANGHAI) CO.,
LTD. Dalian Office



J.S.T.ELECTRONICS
CO.,LTD.



J.S.T.SALES KOREA
CO.,LTD.



J.S.T.India Liaison Office

Asia (Japan)



宇都宮営業所



関東営業所



名古屋営業所



大阪営業所



福岡営業所



津山配送センター

会社沿革

西暦	沿革
1957	・日本圧着端子製造(株)を設立し、倉吉工場を建設 ・当社第1号にして、国産第1号の圧着端子・接続子を製品化
1958	・東京営業所を開設
1962	・名古屋営業所を開設 ・ジェイ・エス・ティ電子工業(株)を設立し、津山工場を建設
1963	・日本で2番目のUL、CSAの認可企業となる
1964	・ジェイ・エス・ティ貿易(株)を設立
1965	・(株)浦安製作所を設立し、浦安工場を建設
1967	・福岡営業所を開設 ・本社営業部から大阪営業所を分離開設
1969	・島根電機(株)を設立し、大田工場を建設 ・日本圧着端子販売(株)を設立し、販売部門を分離(関東営業所、名古屋営業所、大阪営業所、福岡営業所) ・電機・電子市場向け連続圧着端子の製造・販売を開始
1970	・裸圧着端子が日本で最初の日本工業規格(JIS)表示許可を認可される
1971	・倉吉営業所を開設
1972	・大阪技術センターを開設 ・電子市場に向け、当社第1号の圧着コネクタ、Vコネクタの製造・販売を開始
1973	・広島営業所を開設 ・中継用Lコネクタの製造・販売を開始
1974	・高密度実装時代の到来に対応し、プリント基板用多極圧着コネクタ、SHFコネクタの製造販売を開始
1975	・米国にJ. S. TERMINAL CORP. OF AMERICA(現J. S. T. CORPORATION)を設立
1977	・ベルギーにJ. S. T. EUROPE N. V. を設立
1979	・三朝工場を建設 ・当社圧着コネクタの商品化第1号としてNRコネクタを、また産業用コネクタ第1号としてRAコネクタの製造・販売を開始
1980	・生産技術センターを開設
1981	・スペインにJ. S. T. ESPANA, S. A. を設立 ・ジェイ・エス・ティ電子工業(株)院庄工場を建設
1982	・英国にJ. S. T. (U. K.) LTD. を設立
1983	・西倉吉工場を建設 ・創業者高橋梯二がベルギー経済の向上に貢献した功績が認められ、ベルギー政府より「レオポルド2世コマンドール勲章」を受勲する
1984	・日圧電子部品(株)を設立し、宇都宮工場を建設 ・宇都宮営業所を開設 ・シンガポールにJ. S. T. COMPONENTS(S) PTE. LTD. を設立 ・ドイツにJ. S. T. DEUTSCHLAND GMBH. を設立
1985	・大原電子工業(株)を設立し、大原工場を建設 ・産業用市場に向けてEMI対策用シールドコネクタDサブJシリーズの製造・販売を開始

西暦	沿革
1987	・J. S. TERMINAL CORP. OF AMERICA が J. S. T. CORPORATION に ・長野営業所を開設 ・フランスにJ. S. T. FRANCE S. A. S. を設立 ・DサブJKシリーズの製造・販売を開始 ・高密度実装化のニーズに対応した世界初の1.5mmピッチ圧着コネクタ、ZRコネクタを開発
1989	・香港にJ. S. T. (H. K.) CO., LTD. を設立 ・フランス工場を建設 ・西東京営業所を開設
1990	・東京技術センターAを開設
1991	・マレーシアにJ. S. T. COMPONENTS (MALAYSIA) SDN. BHD. (現J. S. T. CONNECTORS (MALAYSIA SDN. BHD.)) を設立
1992	・米国にアメリカ技術センター(AEC)を開設 ・0.5mmピッチ8極SMTタイプのPCカード用コネクタ/D typeを開発
1993	・シンガポールにシンガポール技術センター(SPEC)を開設 ・ヨーロッパ技術センター(ECE)を開設 ・ISO9002認証(西倉吉工場、倉吉工場、三朝工場)
1994	・大阪営業所が大阪市城東区に移転 ・イタリアにJ. S. T. ITALIA S. R. L. を設立 ・インドネシアにP. T. J. S. T. BATAM(現P. T. J. S. T. INDONESIA)を設立 ・日本圧着端子販売(株)、ジェイ・エス・ティ貿易(株)、ジェイ・エス・ティ電子工業(株)、日圧電子部品(株)を吸収合併
1995	・アメリカ工場を建設 ・1.0mmピッチの圧着嵌合タイプコネクタ、SRコネクタの製造・販売を開始
1996	・中国上海にJ. S. T. (SHANGHAI) CO., LTD. を設立 ・本社が大阪市城東区(大阪営業所と同ビル内)に移転 ・事務機器メーカーへの参入拡大に向けマルチハーネス自動圧接機LASERを開発
1997	・浦安工場が鳥取県倉吉市(倉吉工場内)に移転 ・世界初1.0mmピッチ圧着嵌合タイプコネクタSH、SHDの製造販売を開始
1998	・台湾にJ. S. T. ELECTRONICS CO., LTD. を設立
1999	・オーストラリアにJ. S. T. (AUSTRALIA) PTY. LTD. を設立 ・オーストリアにJ. S. T. OESTERREICH GMBHを設立 ・中国上海にJ. S. T. MFG. (SHANGHAI) CO., LTD. を設立 ・倉吉生産技術センターを建設 ・エアバック用コネクタSQSの製造販売を開始し国内自動車メーカーへ本格参入
2000	・韓国にJ. S. T. KOREA CO., LTD. を設立 ・ジャカルタ工場を建設 ・世界初0.8mmピッチ圧着嵌合タイプコネクタSURの製造販売を開始

西暦 沿革

- 2001
- ・韓国に梁山工場を建設
 - ・上海工場を建設
 - ・チェコにJAPANESE SOLDERLESS TERMINALS S.R.O. を設立
 - ・名古屋技術センターを建設
 - ・ベルギーにJ. S. T. IMPORT EUROPE N. V. を設立
 - ・タイにJ. S. T. COMPONENTS (THAILAND) CO., LTD. を設立
 - ・島根に新工場を建設



名古屋技術センター

- 2002
- ・ECE-Parisを開設
 - ・韓国にJ. S. T. SALES KOREA CO., LTD. を設立

- 2003
- ・中国大連にJ. S. T. (SHANGHAI) CO., LTD. -Dalian Office. を開設

- 2004
- ・J. S. T. Brasil Eletronica Ltda. を設立
 - ・西倉吉研修センターを建設



西倉吉研修センター

- 2005
- ・J. S. T. R&D CENTER KOREA Co., Ltd. を設立
 - ・J. S. T. R&D CENTRE DEUTSCHLAND GMBHを設立
 - ・生産工場を関連会社とする会社分割を実施
西倉吉工場・倉吉工場・三朝工場を日圧スーパーテクノロジーズ株式会社、
院庄工場・津山工場をジェイ・エス・ティ電子工業株式会社、
宇都宮工場を日圧電子部品株式会社とする
 - ・世界初0.6mmピッチ圧接嵌合タイプコネクタXSRの製造販売を開始

- 2006
- ・津山配送センターを建設
 - ・世界初0.2mmピッチFPC用コネクタFVXの製造販売を開始

- 2007
- ・JST GROUP - JRDP S. A. S. U. を設立
 - ・J. S. T. EUROPE N. V. と J. S. T. IMPORT EUROPE N. V. が合併し、新会社名が
J. S. T. BELGIUM N. V. となる
 - ・J. S. T. R&D CENTER SHANGHAI CO., LTD. を設立
 - ・創業50周年を迎える
 - ・マレーシア工場 (N, I, U, S) を建設



マレーシア工場 (N)



マレーシア工場 (I)



マレーシア工場 (U)



マレーシア工場 (S)

西暦 沿革

- 2008
- ・上海工場新社屋が竣工



上海工場

- 2009
- ・東京技術センターBが竣工



東京技術センターB

- 2010
- ・環境機器向け製品のラインアップとしてLED照明用コネクタLEAの製造販売を開始

- 2011
- ・Compact Flash AssociationへXQDカード用コネクタの規格化を提案し業界に先駆けXQDカード規格準拠コネクタXCCを開発

- 2012
- ・ウェアラブル機器向けに基板対基板接続用コネクタではピッチ・実装面積とも弊社最小の0.35mmピッチJKSの製造販売を開始

- 2013
- ・大阪市中央区道修町に新本社ビルが竣工
新本社ビルは、
第12回日本建築美術工芸協会芦原義信賞
第59回大阪建築コンクール『大阪府知事賞』
第17回木材活用コンクール『林野庁長官賞』
日本建築士会連合会賞『奨励賞』
グッドデザイン賞2014『オフィスビル』
を受賞



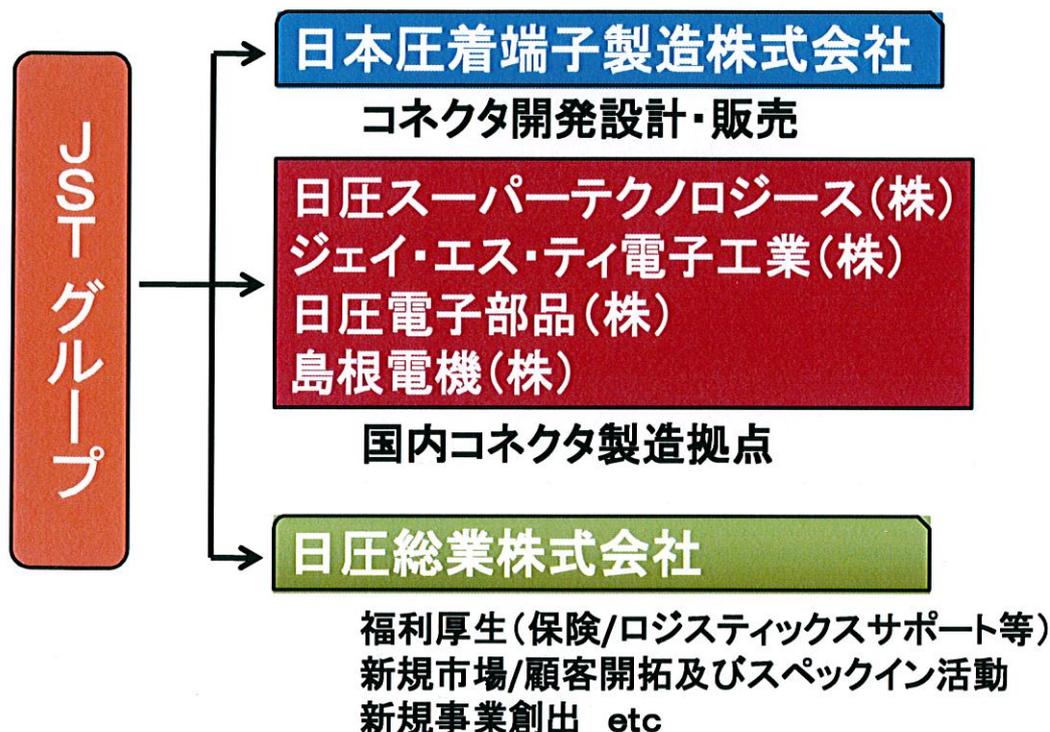
本社

- ・マレーシア工場に新棟増築



マレーシア工場新棟

JST グループ 組織概要



日圧総業 会社概要

JST

- 【会社名】** 日圧総業株式会社
Nichatsu Sogyo co.,ltd
- 【設立】** 1999年9月20日
- 【資本金】** 1,000万円
- 【代表者】** 代表取締役社長 牧田克正
- 【事業内容】** 保険代理店
インターネット事業 施設管理業務
グッズ・アパレル企画販売
新規市場/事業開拓 etc
- 【所在地】** 本社：大阪
宇都宮・横浜・名古屋・津山・倉吉